

著者紹介（掲載順）

萱のり子（かや・のりこ／序章・第6章）

大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。大阪教育大学・東京学芸大学教授を経て、奈良国立大学機構奈良教育大学教授。主要業績に、「わごの学び・学びのわご——言語のあり方を通してみる感覚の共有」『未来につなぐ美術教育』（日本美術教育学会、2021）、共編著『東アジアにおける〈書の美学〉の伝統と変容』（三元社、2016）、『書芸術の地平——その歴史と解釈』（大阪大学出版会、2000）など。

専門は書学・芸術学。近年は、書や文字の学びと感性のはたらきとの関連について探求している。

櫻井佑美（さくらい・ゆみ／第1章）

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。大阪府立久米田高等学校教諭（芸術科書道）。主要業績に、「和歌懐紙の書式にみられる性差について——平安時代における唐と和の役割の違いから」『美術科研究』（34）（大阪教育大学美術教育講座・芸術表現講座、2016）、「平安時代の生活と書写文化——『源氏物語』にみられる手紙文と散らし書き」『美術科研究』（32）（大阪教育大学美術教育講座・芸術表現講座、2014）など。

毎年グループ展で作品を発表。授業では、書道Ⅰ～Ⅲ・実用書を担当している。書を身近に、という思いで授業や制作をしている。

茂木絢水（もぎ・あやみ／第2章／コラム「書道の学びにおける「声かけ」の役割について」）

東京学芸大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道教育コース修了。気仙沼市役所勤務。主要業績に、修士論文「成人教育論の学習モデルをふまえた書道における実践の再検討」（2019）など。毎日書道会会員。書道芸術院審査会員。

市役所で仕事をする傍ら、自らも通う書道教室で子どもたちの指導を行ったり、地域の公民館や児童館で書道講師を務めたりしている。

中村寿樹（なかむら・としき／第3章／コラム「肉筆は分身」）

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。広島学院中学校・高等学校教諭（国語科・芸術科書道）。主要業績に、「情操教育に主眼をおいた書教育の実践について」『公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集』（Vol.3）（2017）、学会発表「言語性と造形性の葛藤から見る書教育の構成について」（第64回日本美術教育学会静岡大会）（2015）、「書の制作体験に内包される教育的意義の再認識について」（第5回書法文化書法教育国際会議）（2007）など。

漢字書、仮名書、水墨画の他、陶芸、木工など工芸的手法も取り入れながら制作に取り組んでいる。個展、グループ展による制作発表を継続中。芸術の中で「本物」とは何か、「本物」が存在するとすればその要件は何なのかということを追求している。

小林真由香（こばやし・まゆか／第4章）

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。大阪府立金岡高等学校教諭（芸術科書道）。主要業績に、井上有一〈愚徹〉を題材とした「『鑑賞学習ルーブリック』を活用した学習指導モデル「上手い」という見方の、その先」『鑑賞学習ルーブリック』を活用した美術鑑賞学習指導モデル集』（日本美術教育学会鑑賞学習指導体系科研チーム監修、2023）、『ミライショドウ2』（大和プレス、2018）、「書における文字性——井上有一『愚徹』の意味」『美術科研究』（16）（大阪教育大学美術教育講座・芸術表現講座、1999）など。

2018年より、「天作会」、「記号と今」、「現代書の新しき展望」などART SHODO関係の活動に参加。日課は毎朝晩の半身浴読書と愛犬散歩妄想／シゴトココロノート。思いついたことはみなやるフルスロットル。

富川展行（とみかわ・のぶゆき／第5章）

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。大阪教育大学附属平野小学校、奈良教育大学、梅花女子大学、大阪大谷大学、京都芸術大学にて非常勤講師。日本書芸院一科審査会員。読売書法会理事。青丹会常任理事。主要業績に、「学習者主体の学び——経験学習をキーワードに」『公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集』（Vol.4）（2018）、「平安時代における「散らし書き」誕生についての一考察——寸松庵色紙にみられる「上下（左右）分割式」の構成法をめぐって」『美術科研究』（28）（大阪教育大学美術教育講座・芸術表現講座、2010）など。

人の「経験」をキーワードに学校教育や作品制作・鑑賞の場で探究している。

藤井美和子（ふじい・みわこ／第7章／コラム「表現とは？」）

大阪教育大学教育学部中学校国語科（書道）卒業。枚方市立東香里小学校指導教諭。小学校書写の教科用図書（日本文教出版）において現場著者として従事。主要業績に、俵屋宗達〈風神雷神図屏風〉を題材とした「『鑑賞学習ルーブリック』を活用した学習指導モデル 屏風の中の風神と雷神」『鑑賞学習ルーブリック』を活用した美術鑑賞学習指導モデル集』（日本美術教育学会鑑賞学習指導体系科研チーム監修、2023）など。

現在、小学校にて理科専科としての授業を行いながら、多学年にわたって書写の授業実践を積み重ね、書写教育におけるさまざまな可能性を探っている。小学校現場で対話型鑑賞を日常的に気軽に行えるような形式を模索中。

門口絵美（もんぐち・えみ／第8章）

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。兵庫県立相生高等学校教諭（国語科）。正筆会総務理事。主要業績に、「安東聖空の仮名書表現における模索」『美術科研究』（21）（大阪教育大学美術教育講座・芸術表現講座、2003）、「書道による自己表現の試み——卒業記念品制作を通して」『美術教育』（289）（日本美術教育学会、2006）など。第45回兵庫県高等学校総合文化祭、姫路飾西高等学校（前任校）書道部、優秀校賞

(2021)。

古文・漢文や書が好きで、それらを通して人々の知恵や生き方にふれることを楽しんでいる。日課はオカメインコと目で会話すること。

太田菜津子 (おおた・なつこ／第9章／コラム「線質」)

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。ノートルダム清心学園清心中学校・清心女子高等学校教諭(国語科)。主要業績に、葛飾北斎〈富嶽三十六景「神奈川沖波裏」〉を題材とした「鑑賞学習ルーブリック」を活用した学習指導モデル 作品鑑賞文を書こう～北斎の「望遠レンズ」に着目して～』『鑑賞学習ルーブリック』を活用した美術鑑賞学習指導モデル集』(日本美術教育学会鑑賞学習指導体系科研チーム監修、2023) など。

心にじんわりと染み入る「言葉」のちからに日々感動しながら、国語と書の連携を試みている。特に鑑賞学習に関心があり、自分の感受性と向き合う大切さを伝える授業を模索中。

五十井玲衣 (いはい・れい／第10章)

東京学芸大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道教育コース修了。埼玉県立志木高等学校教諭(芸術科書道)。主要業績に、仙厓〈花見画賛〉を題材とした「鑑賞学習ルーブリック」を活用した学習指導モデル「ハナの下?」』『鑑賞学習ルーブリック』を活用した美術鑑賞学習指導モデル集』(日本美術教育学会鑑賞学習指導体系科研チーム監修、2023) など。

吉祥寺にて個展、鎌倉にて陶芸家との2人展を開催。また江古田にてジャズ演奏に合わせた書のライブペインティングを実施するなど、他ジャンルとのコラボレーションにより書表現の可能性を模索中。ボイストレーニングを通して言葉と身体、声の関係を探求し、書表現への還流を試みる。

北田創 (きただ・はじめ／第11章／コラム「「ポテトチップスうすしお味」と「蘭亭序」」)

大阪教育大学大学院教育学研究科美術教育専攻書道専修修了。帝塚山中学校高等学校教諭(書写・書道担当)。日本篆刻家協会常務理事・畦石舎々人。主要業績に、「篆刻」『書道Ⅲ指導書』(東京書籍、2015)、「篆刻」『書道Ⅱ指導書』(東京書籍、2014)、「篆刻」『書道Ⅰ指導書』(東京書籍、2013)、「印人・山田正平の篆刻作品における固有性」『美術科研究』(21)(2004) など。

號成磊、字子甫、別署陸沈子。齋號負三廬・泥物堂・蛻舎。1977年生于大阪。好金石、喜泥沙。